

ふるさとを再発見し創生する



まち・むらの「地方創生」の動きは、国の一億総活躍プランで、一層の拍車がかかりました。飯山市も、北陸新幹線を迎えた転機であり、未来像を見直したい。人口や経済動態の激変に沿って、市民感覚にふさわしい政策をつくりあげていくのです。

この未来像は、崩れゆく「むら」を蘇らせる強い絆の「ふるさと」。高度成長期の、大きく・強く・速く、という都市化からの転換であり、どの地域にとっても絶対の命題でしょう。

幸いにも、ここ飯山の山川、暮らし、歴史と文化は、なお輝きゆたかです。その美しい自然とやさしい心情を活かし、スローライフなまちづくりへと向かう試みが、フォーラム「ふるさとを再発見し創生する」なのです。

2016年11月23日(水・祝) 13:00～16:30

飯山市文化交流館「なちゅら」

… 飯山市大字飯山1370-1

プログラム

13:00 開会 (受付は12:30から)

基調講演

「緑、水、そして絆」

神野直彦

(東京大学名誉教授・
スローライフ学会会長)



分科会から提言

14:30 パネルディスカッション

■コーディネーター

増田寛也 (スローライフ学会会長)



■パネリスト

足立正則
(飯山市長)



中村桂子
(JT生命誌
研究館館長)



神野直彦
各分科会座長
アドバイザー

16:30 閉会

(敬称略)

味わいあるフォーラムに・・

・映画「阿弥陀堂だより」の世界を、いま一度

映画では、東京で心身とも傷ついた熟年夫婦が甦る。飯山の深く美しい自然。そこに根づく人々の情愛をあらためて実感した。その物語を、まちづくりに活かしたい。

・飯山の自然と文化を心底から

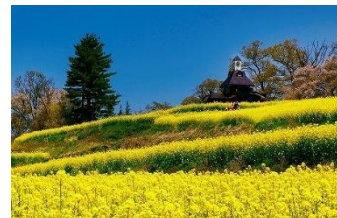
千曲川、桜並木、棚田、苔むす石仏、菜の花畑・・。季節の風物詩に加え、童謡の里、寺町などの風俗、文化もすばらしい。こころの豊かさの根源を大切に。

・徹底して市民主導で

どの地域よりも深く、広く、ふるさと創生の課題を語り合っていく。何より市民主導で、実質論を深く。

・外からの意見の集約にも特色を

創生の願いを、外の世界にどう伝え交流していくか。今回のフォーラムは「螢の宿をまもる会」の協力を得たほか、分科会活動にも新しい展開を見た。



3つの分科会を積み上げて

フォーラムでは3つのテーマで分科会を設け、飯山市民が座長となり、スローライフ学会からアドバイザーがついた。6月12日(日)、7月3日(日)、10月9日(日)と3回にわたり、飯山市民公民館で会合を重ねた。飯山市民と飯山を愛する市外の参加者による議論の結果が、11月23日に提言される。

<第1分科会> 「ふるさとを見直す」

座長：太田和明さん（花卉栽培）、アドバイザー：坪井ゆづるさん（朝日新聞論説委員）

<第2分科会> 「ちびっ子・わけしょの里」

座長：高柳克章さん（建築）、アドバイザー：齊藤 睦さん（地域総合研究所長）

<第3分科会> 「あらためて逸村逸品」

座長：鷲森秀樹さん（仏壇製造）、アドバイザー：野口智子さん（ゆとり研究所長）

東京でも“飯山を学ぶ会”

スローライフ学会の月1回の懇話会「さんか・さろん」でも、飯山創生を考えた。それぞれの分野で、権威ある先生方から学ぶ飯山の学習シリーズです。

5月 堀内隆夫さん（飯山市総務部長） 「日本のふるさと飯山へどうぞ」

6月 梶 亨さん（観光文化創造研究所長） 「童謡・唱歌の里」

8月 生源寺眞一さん（名古屋大学農学部教授） 「農のあるまちづくり」

9月 尾田栄章さん（NPO渋谷川ルネッサンス代表） 「日本の水、飯山の水」

10月 木村 宏さん（北海道大学観光高等研究センター特任教授） 「こころの旅」

参加申し込み・問い合わせは・・

■地元飯山市民の方の問い合わせは、飯山市企画財政課まで。電話 0269-62-3111
～フォーラムは参加無料、事前の申し込みは必要ありません～

■スローライフ学会から参加の方はNPOスローライフ・ジャパンまで。なるべくメールでお寄せください。
氏名、人数、連絡先、交通、マイクロバス利用、夜なべ談義、宿泊など。（宿泊は事務局手配のところでお願いします）
折り返し、こちらから個別にご連絡いたします。

メール slowlifej@nifty.com 電話 03-5312-4141 F A X 03-5312-4554